

令和6年3月28日

学校関係者評価委員会

委員長 豊福 晋平 様

学校運営委員会 委員長 出井 昭一
校 長 菅原 展生

令和6年度に向けた 学校改善計画

日頃より本校の教育活動に、御理解と御協力を賜りありがとうございます。

本校は平成17年度より、家庭・地域と学校が一体となって「協働」し、「共育」・「共創」を目指す地域運営学校として教育活動を行ってきました。学校支援地域本部としての取組も継続して行ってきました。教育活動に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症も令和5年度から規制緩和に伴い、教育活動も通常通り行うことができるようになりました。地域運営学校や学校支援地域本部の取組については、今までの経過や現状を踏まえて実施してきました。

この度、学校関係者評価、学校自己評価を基にした「令和5年度 学校関係者評価提言書」を学校関係者評価委員会よりお示しいただきました。また、2月の合同学校運営委員会におきましては、学校関係者評価委員の皆様、学校運営委員の皆様より貴重なご示唆もいただきました。

いただいたご提案を基に、さらによりよい東玉川小学校にしていくため、本改善計画を立案するとともに、令和6年度の教育課程を編成してまいります。

《令和6年度重点目標について》

今年度も、アンケート項目を主な領域に分けて提言いただいた。以下、その領域ごとに改善計画をまとめている。

- 令和6年度は、令和5年度を通して本校の実態から以下の重点目標を設定した。
- 自他を敬愛し、多様性を尊重することができる豊かな心を育むことで、「毎日の学校生活を充実させ、ひとを大切にする言動ができ児童」を育成する。
 - 児童相互や地域社会等の多様な他者と豊かな関わりの中で学ぶと共に、探究的学びを推進していくことで「自ら課題を見出し、解決するために、自分や友達と試行錯誤を重ね、課題解決を繰り返すことができる児童」を育成する。
 - ICT 機器のことうかてきな利活用を通して一人一人の実態に応じた「指導」と「学び」を展開したり、「協働的な学び」の充実を図ったりして、自ら学ぶことができる児童を育成する。
 - 「自分の体力を高めることを意識して活動に取り組むことができる児童」を育成する。
- 令和5年度までの4年間、コロナ禍により人と関わることが制限されてきた。人との関わりが希薄になっただけでなく、制約のある中で運動することが続いてきたため、人との関わりを深める活動や体力を高めていく取組が行えない状況が続いてきた。心と体を育てることは人間形成の上で重要なと考える。また、これからの中社会を生き抜くために、様々な課題に自ら考え取り組んで行くことや ICT 機器を効果的に活用していくことが必要であると考える。以上の理由により、新たな重点目標を設定

し、取り組んでいく。

《領域別の改善計画》

今年度も、アンケート項目を主な領域に分けて提言いただいた。以下、その領域ごとに改善計画をまとめている。

(2. 1. 学習指導)

調査結果から、教師が授業の中で、児童に自分で考えさせたり、友達と考えさせたりする時間をとっていること、映像やタブレット活用して分かりやすい授業をしていることについては、児童は高い数値となっている。教師がタブレット端末をはじめとしたICT機器を目的に応じて活用し、授業の工夫を図っていること、児童が分かるような授業展開を実践していること等、より良い授業を行っていこうとする姿勢も、学習を通して児童に伝わっていることが分かる。こうしたことから、令和5年度の重点目標「自ら課題を見出し、解決するために自分や友達と試行錯誤を重ね、課題解決を繰り返すことができる児童」の育成について、ある程度の成果が見られている。同様に外国語活動についても、児童が自らコミュニケーションを図ろうとする態度が授業を通して身に付いてきている。「自分の体力を高めることを意識して活動に取り組むことができる児童」の育成については、新型コロナウイルスについての規制緩和に伴い、体育の授業や休み時間等で、体を動かす機会を設けることができた。

また、本校は塾や習い事に通っている児童が多く、家庭学習を宿題以外に自主的に取り組む時間が限られている状態がある。e ラーニングの紹介を継続するとともに、家庭の実態に応じて柔軟に活用できるようにしていく。

令和6年度は、効果が上がっている実践は継続して行い、さらなる能力の向上を目指していく。それに加え、重点目標に、多様な他者との豊かな関わりの中で学び、探究的な学びを推進していくこと、ICT機器の効果的な利活用を通して個々の実態に応じた「指導」と「学び」を展開すること、「協働的な学び」の充実を図ることで自分らしく学ぶことができる児童を育成していく。

本校の学習指導の基本となる「せたがや探究的な学び」についても、改めて令和6年度の教育計画の中に位置付け、その取組内容を保護者、地域に理解してもらえるように発信をしていく。

(2. 2 生活指導)

本校の教育目標「自分を大切に ひとを大切にする ひがたまの子ども」として、自他を敬愛する態度を養うことに重点を置いている。令和5年度の重点目標1にある「毎日の学校生活を充実させ、ひとを大切にする言動ができる児童」の育成に努めてきた。その上で、児童のアンケート結果を見ると、全ての項目において高い評価であった。こうしたことから、現在生活指導で行ってきた SST (ソーシャルスキルトレーニング) の学習や WebQ-U アセスメント調査を活用した個々の児童の実態把握に基づいた学級指導、学級経営等の取組は継続していく。今後も児童が生活規律を身に付け、心と体を整え安定した気持ちで学校生活を送れるよう生活指導部を中心に組織的に対応していく。年度当初に「生活指導上の共通理解」を全教職員で確認し、指導の徹底をしていく。学校生活を送るための行動の基本となる「ひがたまスタンダード」については保護者・地域にも情報発信して理解を図る。また、高学年が活躍できる場を設定し、リーダーシップを發揮する中で非認知能力（自他を思いやる心、自己肯定感、協調性）の育成を次年度も取り

組んでいく。

「デジタルシティズンシップ教育」については、教師が「デジタルシティズンシップ教育」の考え方の3つの柱「安全」「責任」「大切」を扱えるよう、タブレット端末活用時に指導を重ねてきた。そのため、児童にもその考え方方が定着してきていることが児童や教師のアンケート結果から分かる。しかし、保護者については令和5年度も無答傾向が見られる。令和6年度も「デジタルシティズンシップ教育」については学校だより、HP、保護者会等で紹介していく、理解の定着を図っていく。

(2. 3 学習行事)

令和5年度の学校行事は、5月からの規制緩和に伴い、従来行ってきた行事に取り組むことができた。取組は、コロナ禍での行事の運営方法や内容の良いところを取り入れて実施してきた。アンケート結果では、児童、保護者、地域からも高い評価を得ており、令和6年度も令和5年度の方法で行事を行っていく。取組を行いながら内容の検討も重ね、より良い取組を検討していく。

今年度は、クラブや委員会活動に加え、縦割り班活動も定期的に行い異学年交流を増やすことができた。高学年の児童が学校の中心的存在として活躍できる行事や場を設けることで、高学年としての自覚や責任感をもつことができた。しかし、コロナ禍の影響で上級生の姿を見て学ぶことが少なかったことや6年生への丁寧な支援も必要であった。その点は令和6年度の様々な異学年交流の中で配慮し、必要な支援を行っていく。

(2. 4 キャリア教育)

キャリア教育については、児童が、これから社会で生きていくための基礎となる能力や態度を育て、キャリア発達を促す指導を重ねている。キャリアパスポートを活用して、自分自身を知りより良くするために必要な力を身に付けること、行事などの様々な活動を通して自分の役割や責任を果たすこと、身の回りの仕事や環境への関心・意欲を高めること、夢や希望に向けたイメージをもつこと等を学び、発達段階に応じた「自分の生き方」「将来の自分を見据え、必要な能力を身に付けること」について考えさせる取組を行ってきた。

しかし、アンケート結果からは、無答傾向や評価が低い傾向にある C43「区立中学に関する情報提供」P041「子どもに目標を持たせ支援」P042「子どものキャリアや将来について考える授業」P042「子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」があり、児童や保護者のキャリア教育に対する理解は十分得られていないことが挙げられる。取組については、各学年の発達段階や学習内容に応じて各教科、総合的な学習の時間、道徳の学習と関連付けて、計画的に学習を行っている。取組や学習がどのようにキャリア教育に位置付けられているのかを説明するとともに、学校だより、HP等での発信を繰り返ししていく。また、キャリアパスポートの活用から、学習を通して学んだことやこれから身に付けていくこと等を明確にさせていく。

(2. 5 教職員)

児童に対する丁寧な指導や教育上の様々な課題については、教職員で共通理解を図るとともに組織的に対応していく。

児童のアンケート結果で「先生たちに相談できる」は昨年度に引き続き、低い結果であった。教師の多

忙化も起因しているため、令和5年度は校務分掌の内容の精選と取組内容の変更等を行ってきた。S.S.S.（スクール・サポート・スタッフ）の取組や会議や事務連絡等のオンラインの掲示板の積極的な活用も業務の軽減につながっているが、多忙化の改善にはなかなか至っていない。こうした現状から、令和6年度も時間活用や学校行事の精選、内容の見直しを行い、教師が児童と関わる時間や保護者対応の確保を図っていく。また、配布物等の内容についての実情に合わせた見直しも継続していく。

（2. 6 全般）

令和5年度より、新型コロナウイルス感染症が第5類になり、行事を含めた取組も規制なく、従来通りに公開を行ってきた。今後も本校の教育活動や児童の様子を知ってもらえるよう参観できる機会を設定していく。

学校の重点目標については、学校だよりやHP等で情報発信を継続して行ってきた。また、「学校評価だより」を出すことによって重点目標だけでなく、せたがや探究的な学びやキャリア教育やデジタルシティズンシップ等、本校の主な取組について分かりやすく説明を重ねている。令和6年度も繰り返し説明を行い、理解を得られるようにしていく。

「学び舎」を含めた学校間の交流は、月1回のあいさつ運動や生徒会と児童会との連携した取組を継続して行っている。また、小中学校の教員による各校の児童理解や情報交換も行っている。取組についてはHPや学校だよりで紹介を続けていく。さらに令和5年度は近隣の保育園、幼稚園と小学1年生との交流会を実施した。次年度もこの取組を実施し、保・幼・小の連携も図っていく。

（2. 7 情報提供）

学校の様子についての情報提供は、学校だよりやHPを通して保護者に伝えている。HPの投稿回数を増やし、情報を伝えることは継続していく。保護者や地域の評価アンケートについては、「学校評価だより」等の資料で説明し、本校の教育について理解を図るようにする。

例年課題となっている「学び舎」の取組の理解については、（2. 6全般）でも挙げている紹介する機会を様々な場面で行っていく。行った活動についても学校だより、HPで紹介していく。地域に向けては、令和6年度も地域の掲示板を活用させていただくこと、手紙（紙面）での報告をすること等の情報発信をしていく。

（2. 8 地域連携）

本校は地域運営学校の取組も長く「地域とともに子どもを育てる教育」を掲げ、豊かな教育活動を推進している。その取組は、学校運営委員会が中心となり、保護者・地域の方々より様々な支援をいただき「学校支援地域本部」として「学力向上」「読書活動」「家庭教育」「校内緑化」の4つの支援部による活動を行っている。詳しくは（2. 11 支援部）の項目で記載。地域のアンケート項目R72の「本校は、地域との連携に努め、地域を学ぶ機会を大切にしている」は高い評価であった。地域運営学校としての教育活動が地域にも定着していることが伺える。令和6年度も、城南環境学習グループの方々や地域の方々から学ぶ取組を通して地域理解や学びを深めさせていく。

保護者アンケートの結果では、学校と地域とのかかわりが十分に理解されていないことが分かる。学校で行っている地域の方々から学ぶ取組や地域について学ぶ取組について、学校だよりやHPを通じて紹

介し、学校と地域との連携や地域の方々から学ぶ様子を保護者に伝えていく。

(2. 9 安全性)

安全性については、令和4年度にPTAが作成した通学路動画を積極的に活用し、児童が使う通学路の危険個所を映像で確認して安全指導に生かしてきた。具体的な場所での注意点が分かるため効果のある安全指導につながっているため、今後も活用とともにPTAや関係諸機関の協力を仰ぎ、児童の登下校の安全に努めていく。令和6年度も交通安全、不審者や災害対策等を踏まえて様々な避難訓練や安全教室、集団下校等、安全に対する取組を計画し実施していく。学校だよりやHP等で発信し、保護者や地域の方々が本校の安全に対する取組についての理解を深めてもらえるようにしていく。

(2. 10 学校運営)

令和6年度も教育目標を「自分を大切に ひとを大切にする ひがたまの子ども よく学び よく遊べ」とし、「自分を大切に ひとを大切にする」を重点として自他を尊重する態度の育成を目指していく。自他を尊重する態度については、学校生活はもちろん、生きていく上で身に付けておくべき大切な要素である。道徳の授業だけではなく、日常生活の様々な場面で相手の気持ちを考えて行動することができるよう指導を重ねていく。同時に、(2. 2 生活指導) (2. 6 全般) でも挙げているが、児童だけでなく、保護者や地域の方々への理解も図っていく。

アンケート結果から、校務については、教員が与えられた職務を果たす努力を重ねていることが分かる。その反面、職場の相互理解や信頼関係、ワーク・ライフ・バランスについては課題があった。教育活動の中で起こる課様々な題に対して組織的に対応する体制で臨むことを徹底していく。また、行事、校務分掌の精選や内容の改善、オンライン配信による保護者への配布文書や会議資料等のペーパーレス化、スクール・サポート・スタッフ、サポーターの活用等による担任の児童対応や事務処理時間の確保を図り、校務の軽減を図っていく。

(2. 11 4支援部)

「学校支援地域本部」として「学力向上」「読書活動」「家庭教育」「校内緑化」の4つの支援部による活動を行っている。令和5年度は各支援部で活動を行うことができた。内容は以下の通りである。

「読書活動」では、保護者、地域の方々の協力による読み聞かせ（おはなしまたごの読み聞かせ）を通して低学年から読書に対する関心を高めることができていた。

「学力向上」では、城南環境学習支援グループや地域の方々による自然観察や町探検等、児童が実際に体験を通して学ぶ機会を行うことができた。今後も引き続き行っていく。

「校内緑化」については、取組内容を検討し、飼育・栽培委員会と連携した取組を活動の中心とした。保護者、地域の方々（常緑会）と児童が関わる機会にもなり、今後もこの方法で行っていく。

「家庭教育」は、コロナ禍以前は、乳幼児のお子さんがいる母親を対象に、保護者や地域の方々が育児の悩みを聞いたり、相談にのったりするマザーリングを行っていた。しかし、コロナ禍が長く続き、乳幼児の母親が学校に足を運ぶことが難しくなっていることから、今年度は取組内容を検討して、保護者対象の給食試食会を実施した。非常に多くの保護者が参加をし、本校の給食について知つてもらう良い機会となった。次年度も計画して実施する予定である。

以上のように4支援部の取組は、令和5年度に改善を加えて行ってきた。令和6年度は、5年度の各部の取組課題を検討し、改善した内容で実施していく。